

多面的機能支払交付金 取組事例集



令和4年3月
石川県農林水産部里山振興室

多面的機能支払交付金 取組事例集 目次

番号	事例テーマ		
1 地域資源の適切な管理			
	1-1	加賀市	弓波町資源保全会
	1-2	能美市	能美市農地・水・環境保全会
	1-3	かほく市	かほく市農地・水・環境保全会
	1-4	津幡町	大坪・別所農地保全会
	1-5	七尾市	日用川グリーンクラブ
	1-6	宝達志水町	宝志みどり広域協定
	1-7	中能登町	グリーン・クリーン中能登
	1-8	珠洲市	中環境保全会
2 農業用施設の機能増進			
	2-1	川北町	川北町農地・水資源保全会
3 農村環境の保全・向上			
	3-1	小松市	津波倉町環境保全会
	3-2	金沢市	グリーンワーク大場
	3-3	内灘町	グリーン・アース農地・水・環境保全会
	3-4	志賀町	末吉トミヨ倶楽部
	3-5	輪島市	尾山農業環境保全会
4 農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献			
	4-1	白山市	美土里ネットはやしなか広域協定
	4-2	野々市市	環境保全会末松
	4-3	穴水町	宇留地地区活動組織
	4-4	能登町	山口みどりの里保存会※能登町広域協定運営委員会
5 構造改革の後押し等地域農業への貢献			
	5-1	羽咋市	邑知潟水土里ネットワーク



1-1 地域資源の適切な保全管理

都市的地域



キーワード
地域資源の
保全管理

ゆみなみまちしげんほぜんかい かがし
弓波町資源保全会 (石川県加賀市)

- 本地域は加賀市中央部に位置し、平地や河川で形成されている。用水路などの施設が整備されており、地形を有効活用した稲作を営んでいる。
- 本地域における農地保全管理体制の維持及び充実を図るため、平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組んでいる。
- 本取組により町内会等の非農家の協力が得られ、農地保全管理活動が「生産組合のみの活動」から「町全体での活動」へと発展している。

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積45ha (田45ha)
- ・資源量 水路14.6km 農道5.7km
- ・主な構成員 生産組合、町内会、婦人会等
- ・交付金 約1.8百万円(R2)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同) 〕

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化、後継者不足、農村の人口減少により、農業者だけによる施設管理が困難になってきた。さらに農地の耕作放棄地化が懸念された。
- また、集落内における農業者と非農業者のつながりが希薄化していた。
- 市内の農業施設は造成後45年以上が経過し、老朽化に伴う水路の漏水など維持管理の負担が増加してきている。



取組開始時の様子

取組内容

- 定期的に実施している施設点検や機能診断の下、きめ細かな草刈や水路の泥上げ、補修など適宜実施している。
- 耕作放棄地化する恐れのある農地については、共同活動による保全管理を継続して実施している。
- 災害時の見回り等により、施設の損傷などの早期発見に努めている。



路面の維持

取組の効果

- 共同活動をきめ細かく地域ぐるみで実施しているため、カメムシ等の害虫発生防止、施設故障等の発生リスク回避及び被害拡大の抑制により、保全管理コストや労力の削減に繋がっている。
- 地域住民が自ら地域の環境保全や施設管理に取り組むことで、地域全体の課題解決に向けた意識が向上した。
- 地域ぐるみで農地を保全する意識が醸成され、管理の行き届いた圃場が維持できている。



共同活動の様子

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積1201ha
(田1,197ha、畑4ha)
- ・資源量 水路321.9km
農道162.7km
- ・主な構成員 農業者、町内会、
生産組合等
- ・交付金 約56百万円(R2)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

のみしのうち・みず・かんきょうほぜんかんりきょうてい のみし

能美市農地・水・環境保全管理協定(石川県能美市)

- 能美市農地・水・環境保全管理協定は、平成19年より本交付金による取組を実施し、広域組織として活動している。
- 24町会からスタートし、ほかの町会の活動を聞き事業に参加する町会が増えたことで、現在は45町会まで参加地区が増加した。
- 本事業により、農業者だけでなく町会として事業に取り組み、農道の草刈りや水路の泥上げ活動への地域住民の参加も少しずつ増えてきている。作業員不足を解消するために、複数の町会が合同で取り組む地区も出てきた。

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化・減少、後継者不足により農地の多面的機能の発揮に支障が生じる。
- 水路、農道等の地域資源の管理に対する農家の負担の増加への懸念。
- 集落内の農業者と非農業者の関係が希薄化。



話し合いの様子

取組内容

- 年度初めに活動計画を策定し、「施設の点検」や「機能診断」を行う。
- 農業者と非農業者が一体となって、農道の草刈りや水路の泥上げ、施設の補修などを適宜実施している。



泥上げ

草刈り

取組の効果

- 少しずつ事業の参加町会が増加し、合同で事業に取り組む地区も出てきた。
- ほかの町の農道・水路を確認する人が増え、ポイ捨て禁止の看板の設置や軽微な補修が増加している。
- 地域で地域資源の保全管理に取り組むとで、活動・解決策に対する意識が向上している。



看板の設置

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積640ha
(田558ha、畑82ha)
- ・資源量 水路263km
農道141km
- ・主な構成員 各活動地区

・交付金 約39百万円(R2)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

かほくしのうち・みず・かんきょうほぜんかんりきょうていうんえいいいんかい

かほく市農地・水・環境保全管理協定運営委員会 (石川県かほく市)

- 本地域では、豊富な水資源を活用した水稲作付が主であり、一部の砂丘地や山間部において果樹や野菜の栽培が行われている。
- かほく市農地・水・環境保全管理協定運営委員会は、かほく市宇ノ気地域農地・水・環境保全管理協定とかほく市高松瑞穂地域農地・水・環境保全管理協定の2つの広域組織が統合し、H29年度より活動を開始した。
- これにより、広域組織での地区内の農道・水路の一体的な保全管理が可能となるとともに、事務・会計を一本化することで効率化が図られている。

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化、後継者不足により、農業者だけによる施設管理が困難となり、さらには、耕作放棄地発生の懸念が生じた。
- また、多面的機能支払交付金の事務においても作業負担が大きく、活動のノウハウが増えていかないことが課題であった。



取組内容



- 農業者と非農業者が一体となり保全管理活動を実施。集落の枠を超えた情報交換も行われる。
- 年に一度開催される総会にて、事業の報告のほか、活動項目の変更点等を説明。
- 新たに広域組織に加入する活動組織もあり、将来的には市全体での広域化を目指している。



取組の効果

- 広域組織への加入による事務負担の軽減の他、集落代表者間の情報共有により用途が広がっている。
- 広域組織であることを生かし、余剰金の他集落への分配など、効率的な交付金の運用を行うことができる。
- 効率的な運用及び活動のノウハウの共有により、活動参加者の意欲が高まり、地域資源の保全管理体制の強化につながっている。





1-4 地域資源の適切な保管理 農地の保管理の推進

中間農業地域



キーワード
地域資源の
保管理

おおつぼ べっしょのうちほぜんかい かほくぐんつばたまち
大坪・別所農地保全会（石川県河北郡津幡町）

- 本地域は町の南部の中山間地域で、緩やかな勾配の水田で稲作が営まれている。
- 本組織は集落農業者の高齢化により、個人での水路・農道等の維持管理及び農用地の獣害対策が困難になってきたことから、それらを解消する目的で、平成28年度から大坪集落と別所集落の2集落から成る組織を設立し、事業に取り組んでいる。
- 事業開始当初は、農地・農業用施設の草刈り及び獣害対策の共同活動をメインに農地維持支払の取組のみを行い、2年度目から資源向上支払（共同）の取組を追加している。
- これにより、集落内の草刈り等の共同活動の回数が増え、年間を通じて農業用施設が適切に保全されるようになった。また、非農業者の参加人数も増え、特にプランターへの植栽活動には多くの住民が参加している。

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積12.2ha
（田11.5ha、畑0.7ha）
- ・資源量 水路6.2km
農道2.9km
- ・主な構成員 農業者、自治会
- ・交付金 約0.6百万円(R2)

農地維持支払
資源向上支払(共同)

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化等により、農業者個人を主とした農業用施設の維持管理が困難化。さらには、猪による農用地の被害も深刻となり、遊休農地面積の発生も近い将来の課題になっていた。
- 「集落内における農業者と非農業者のつながり」が希薄化。



取組内容

- 施設の点検及び機能診断の結果、遊休農地発生防止のための保管理や水路・農道・ため池の草刈り及び泥上げを中心に共同活動を実施している。
- 大雨後の見回りにより、農業用施設の損傷等の早期発見に努めている。
- 景観形成活動として、プランターへの植栽活動を年に1度、非農業者を中心に実施している。



取組の効果

- 取組実施前より、水路・農道等の維持活動の頻度が増えたことにより、保全状態が良好となった。
- 事業の開始をきっかけに、農用地の電気柵の設置や、約0.3haの不作付地を解消することができた。
- 事業を通じて、農地・農業用施設の集落内での活動や、話し合いの回数が増えたことにより、2つの集落内で、農地の保管理意識の向上に繋がった。





ひょうがわ ななおし 日用川グリーンクラブ (石川県七尾市)

- 本地域は、日用川流域に広がる農業地域である。日用川の豊かな水を利用して、稲作を中心とした農業が行われている。
- 遊休農地の発生防止やため池・水路・農道等の保安全管理を目的として、5集落からなる日用川グリーンクラブを立ち上げ、平成19年度より農地・水保安全管理支払事業に、平成26年からは本事業に取り組んでいる。
- ため池・水路・農道等の草刈りでは非農業者にも参加を呼び掛けており、地域ぐるみで農業用施設の保安全管理を行っている。また、この活動によって認定農業者の管理負担が軽減されていることで農地の集積にも寄与している。
- 施設の定期的な点検等により、ため池等の施設が良好に保たれているとともに、防災・減災への意識が高まっている。

【地区概要】

- ・認定農用地面積136.14ha (田133.81ha、畑2.33ha)
- ・資源量 水路46.7km 農道25.2km
- ・主な構成員 農業者、町内会、実年会、女性会、子ども会
- ・交付金 約6.5百万円(R2)

農地維持支払
資源向上支払(共同)

活動開始前の状況や課題

- 昭和後期のほ場整備後に農地集積が進み非農家が増加し、H19年度には農家数がピーク時の1/3となった。
- 90戸未満の農業者だけでは130haを超える農地の水路・農道のほか、ため池や用排水機場等の維持管理が難しくなっていた。
- これまで点検等の習慣がなく、壊れてから補修することが通常だった。
- 農村伝統行事である虫送りには、小学生までの子どもがいる家庭が空き缶松明を作り参加していた。



取組内容

- 非農業者にも参加を呼びかけ、地域ぐるみで水路・農道等の草刈りを行っている。
- 施設の定期的な巡回点検・機能診断や異常気象時の見回り等により、異常の早期発見と応急対応や補修対応を行っている。
- 清掃活動やきめ細かな除草作業により不法投棄や外来種であるセイタカアワダチソウの繁茂を防いでいる。
- 虫送りで使う松明は各町内会壮年団でまとめて製作することで誰でも参加しやすくしている。



取組の効果

- 地域ぐるみの活動と農業者による施設点検により、用排水機場・パイプライン・ため池・水路・農道といった施設が良好に保たれるとともに、防災・減災への意識が高まっている。
- 施設が適切に管理されていることで、認定農業者が施設管理に向ける時間や労力が軽減されており、農地集積にも寄与している。現在、認定農用地の約80%を認定農業者が耕作している。
- 本事業を契機に農村伝統行事である虫送りが継承できている。





1-6 地域資源の保管理 広域化による地域資源の保管理体制の維持・強化

平地農業地域



キーワード
地域資源の
保管理

ほうし こういききょうてい はくいぐんほうだつしみずちょう
宝志みどり広域協定（石川県羽咋郡宝達志水町）

【地区概要】※R3年度時点
 ・認定農用地面積186.15ha
 （田186.15ha）
 ・資源量 水路62.4km
 農道31.6km
 ・主な構成員 土地改良区、自治会、
 女性会、子供会等
 ・交付金 約7.7百万円（R2）
 （農地維持支払
 資源向上支払（共同））

- 本地域では、地域農業と農村環境を維持・向上させるため、平成19年度から「農地・水・環境保全向上対策」に取り組み、4組織の事務を土地改良区が受託の上、資源の保管理を実施。
- 県・町の広域化推進により令和2年度に、土地改良区が事務受託する6組織で、広域協定を締結。令和3年度には7組織となり、町内の活動組織の約半数が広域化に参加。
- 土地改良区が広域協定の一員として運営委員会の事務を行い、活動の支援・指導及び事業全体を調整することで、活動組織の負担が軽減され、活動に専念できる時間と人員の確保につながった。
- 組織の広域化を通じて、地域資源の保管理体制の維持・強化が図られている。

活動開始前の状況や課題

取組の現状

- 構成員の高齢化や、事務の煩雑さに対応できる人材の不足。
 共同活動参加者が年々減少している点等が各組織共通の課題として顕在化。

取組の課題

- 事務作業の担い手確保、事務負担の軽減など、組織の実情に応じたサポート、事業実施体制の強化が急務。
- 共同活動参加者の人材不足に対して集落間での作業支援を行うことができるような体制の整備が必要。

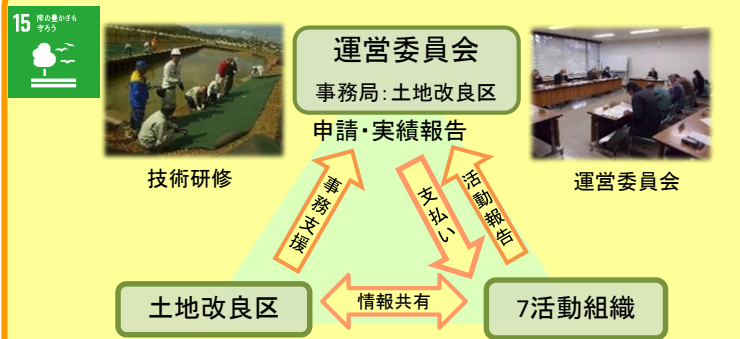


水路・農道の草刈り



相談・指導

取組内容



事務

- 申請(計画・変更・交付金)等書類作成
- 運営委員会の本部的役割(活動計画・予算・委員会開催)
- 活動記録(日報・写真帳)等の整理
- 施設補修等の研修会開催、有用・効果的な情報の共有化
- 組織間、行政との連絡調整

会計処理

- 交付金管理(会計の一本化)日当、金銭出納簿の作成、領収証整理等
- 年3回約300人分を口座振替等で処理

取組の効果

事務委託による効果

- 土地改良区が事務局を担任することにより、地域に応じた指導や支援を実施し、課題の一つである事務作業に対する不安が解消。
- 事務作業の負担軽減により組織活動・作業に専念できる時間と人員を確保。

団体の連携

- 集落間での共同活動支援者が、現在少数であること等を踏まえ、広域作業班設立に向け所要の検討を開始。

広域化による効果

- 提出書類・事務処理の一本化により、事務の効率化・合理化が実現。
- 広域組織内で事業に関する情報交換・情報共有が迅速かつ円滑に実施可能となるなど、幅広い活動を効果的に展開することができる体制を構築。
- 取組面積が大きくなり、交付金が増加するなど広域化のメリットを活かし、広域協定内での交付金の融通化、共同による大型草刈機の導入を検討中。



なかのと かしまぐんなかのとまち

グリーン・クリーン中能登（石川県鹿島郡中能登町）

- 本地域の農用地は、二級河川長曾川流域に広がる水田地帯で、主に水稻を作付けしている。
- グリーン・クリーン中能登は、本地域における農地保管理体制の維持及び充実を図るべく、平成20年より農地・水・環境保全向上対策に取り組んでおり、中能登部下区（8町内会で形成）で実施している組織である。
- 農村環境の維持管理が粗放化し農業者による管理が困難な箇所等については地域ぐるみで共同活動を実施し、保管理に努めている。
- 本交付金の取組により、地域全体で地域資源を保全する意識が醸成され、保管理体制の強化につながっている。

【地区概要】

- ・ 認定農用地面積44.92ha
（田44.18ha、畑0.74ha）
- ・ 資源量 水路 23.1km
農道 4.8km
ため池 7箇所
- ・ 主な構成員 町内会、生産組合
子ども会
- ・ 交付金 約 3.8百万円（R2）
（農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化））

活動開始前の状況や課題

- 生産組合や農業者等が農道・水路の草刈りや泥上げの共同作業を行ってきたが農村維持管理が粗放化し、農業者だけの管理が困難な状態となっていた。
- また、農家人数の減少及び農家の高齢化が進行しており、そのまま放置すれば、農業の活力が低下し、農業用施設の老朽化や、農地が耕作放棄地化する恐れがあった。
- 施設の老朽化により、水路の漏水や泥の堆積が進行し、維持管理の負担が増加していた。



取組内容

- 農業用施設の適切な維持管理を行っていくため、地区の中で話し合いを行い地区内の8町内会で連携を図り各活動を実施している。
- 定期的実施している「施設の点検」や「機能診断」のもと、きめ細かな草刈りや水路の泥上げ、施設の補修などを適宜実施しており、災害時には見回り等により施設の損傷等の早期発見に努めている。
- 農地の維持管理に関心を持ってもらうために、水路敷の植栽活動と小学生を対象とした農業体験活動を実施している。



取組の効果

- 環境保全や施設管理に取り組むことで、活動参加者全体の保全活動に対する理解や地区の課題解決に向けた意識が向上したため、取組実施前より農道、水路の保全状態も良好となり、管理の行き届いた圃場を維持できている。
- 毎年定期的に役員会を開催し、情報の交換を継続するとともに、地域での集会の回数が増えたことで、地域資源の保管理体制の強化につながっている。



なかかんきょうほぜんかい すすし 中環境保全会（石川県珠洲市）

- 本地域は、きれいで豊かな水を活かした米づくりを中心とした、市内でも有数の農業地帯である。
- 圃場整備を契機に地域住民で構成される農事組合法人が中心となり、地域ぐるみで施設管理を行うため、平成26年度より本交付金による取組を開始。
- 地域ぐるみで維持管理体制を構築し、共同活動において非農業者の積極的な参加に繋がっている。

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積16.0ha
（田15.5ha、畑0.5ha）
- ・資源量 水路5.0km
農道3.0km
- ・主な構成員 農事組合法人、
非農業者、婦人会等
- ・交付金 約0.7百万円(R2)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同) 〕

活動開始前の状況や課題

- 高齢化や後継者不足、イノシシ被害の影響で離農者が増え、担い手だけでは農業用施設の維持管理が困難な状態となっていた。
- 圃場整備が完了するも、高齢化を理由に耕作されない農地が徐々に出てくるのが危惧されていた。



圃場整備前の耕作放棄地

取組内容



- 本地区の多面的機能の維持・管理を図るため、地域全体で共同活動を実施。



- 地元婦人会を加えての景観形成活動(花壇の整備及び植栽)を実施。



植栽等の景観形成活動

取組の効果

- 活動に対して日当を支払うことができるようになり、活動への参加者が増加したことで労力確保に繋がった。
- 地域住民が自ら地域の環境保全や施設管理に取り組むことで、地域全体で、保全活動に対する意識や、地域の課題解決に向けた意識が向上した。
- 地域ぐるみで農地を保全する意識が醸成され、管理の行き届いた圃場を維持できている。



かわきたまちのうち・みずしげんほぜんかんりきょうてい かわきたまち

川北町農地・水資源保全管理協定（石川県川北町）

- 本地域は第1級河川の手取川沿いに東西に長い地形の水田地帯で、ほとんどの開水路等の施設は造成後40年近く経過し、老朽化の進行により維持管理に苦慮していたことから、平成19年より本交付金による取組を実施。
- 本組織の特徴として、当初より広域組織として活動しており、総会では課題の早期発見と解決に向けた話し合いが積極的に行われている。
- 取組の結果、施設の補修や除草作業等を農家・非農家が協力して作業することで、共同作業の理解が向上するとともに、本活動の啓発・普及にもつながっている。

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積723ha
（田719ha、畑4ha）
- ・資源量 水路189.9km
農道108.6km
- ・主な構成員 子供会、女性協議会、
老人会、自治会、農業団体等
- ・交付金 約32百万円(R2)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域では、稲作だけではなく、露地野菜や果樹の栽培も盛んであるが、果樹等の運搬の際に農道の轍がひどく、果樹等に傷がつき品質の確保が困難だった。
- また、水路法面が長く、勾配も急なことから、草刈が困難で除草剤散布をしていたが、法面の砂が落ち、砂利等が露出している状況となっており、作業中の事故につながる危険性があった。

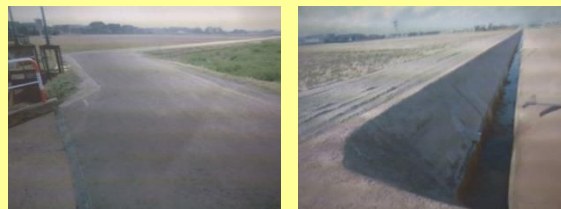


施工前の様子

取組内容



- 轍の悪化等、運搬に支障のある箇所を中心に、農道の簡易舗装工事を実施。
- 比較的安価な素材を用いて、計画的に水路法面の防草工事を実施。



施工後の様子

取組の効果

- 農道の簡易舗装により果樹等運搬の際の痛みが大幅に軽減され、品質の良い作物を出荷することができるようになり、イチジクやタマネギ等が町の特産品として取り扱われるようになった。
- 水路法面の防草工事により、作業量を低減化、また、草刈等を実施する構成員は高齢なため急勾配の法面での作業がなくなり、作業中の事故の心配もなくなった。
- 活動を通じて、地域の中で農業用施設の維持管理の必要性、有効性への理解が深まった。



つばくらまちかんきょうほぜんかい
こまつし
津波倉町環境保全会（石川県小松市）

- 本地域は小松市の南東部に広がる緑豊かな地域である。近年、農業者の高齢化と減少に伴い、優良農地でも耕作放棄地が増えつつあり、豊かな農村景観に悪影響を及ぼしている。
- 津波倉町環境保全会では令和元年度より本事業に取り組んでおり、耕作放棄地の解消と景観向上を目的にコスモス畑作りを行っている。
- これにより、農村景観の回復が図られるだけでなく、地域住民と一体となって農地保全管理活動が行われるようになった。

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積 24.0ha
（田 24.0ha、畑 0ha）
- ・資源量 水路 3.2km
農道 5.0km
- ・主な構成員 生産組合、町内会等
- ・交付金 約1.2百万円（R2年度）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化・後継者不足等により担い手が減少し、農業者だけでは施設の維持管理が困難になっている。
- 特に、観光地である粟津温泉につながる県道沿いの農地が、長年耕作放棄地となっており、地域の景観を損ねている。



開墾前（2m以上の草木が生い茂っている）

取組内容

- 耕作放棄地の解消と景観向上を目的に5ヶ年計画でコスモスの栽培（約15,000㎡）を実施。
- R元年度 約 1,000㎡
R2年度 約10,000㎡
R3年度 約12,400㎡
R4年度 約15,000㎡ 予定
- コスモス畑でイベント等を開催し、地域住民の交流を深める。



開墾と土壌作り



地域住民とコスモスの種散布

取組の効果

- 耕作放棄地の解消だけでなく景観の向上を図ることができ、地域住民だけでなく粟津温泉に来る観光客の癒しの空間となった。
- 農業用施設の維持管理や環境保全について住民や子供の関心が高まった。また、世代間・住民間の交流が深まり、地域住民の一体感が醸成された。
- 取り組みがメディアで紹介され、津波倉町を知ってもらうことができた。



広報看板を設置



満開に咲いたコスモス

おおば かなざわし グリーンワーク大場（石川県金沢市）

- グリーンワーク大場は、約160年前に地元で発見された米品種「大場坊主」の栽培を復活させ、制度取組が始まった平成19年度より、地域ぐるみで栽培を行っている。
- 子ども達と共同で昔ながらの手作業による農作業体験を実施することにより、伝統農法に対する理解が深まったほか、地元小学生により、お米づくりの栽培技術に関する研究発表を行うなど、制度取組前と比較して、地域の交流や活性化に繋がっている。

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積88ha
（田86ha、畑2ha）
- ・資源量 水路28.2km
農道10.1km
- ・主な構成員 自治会、営農組合、
自営農業者、青壮年部等
- ・交付金 約4.2百万円（R2）

農地維持支払
資源向上支払（共同）

活動開始前の状況や課題

- 当地域において、コシヒカリの先祖となる米の品種「大場坊主」が約160年前に発見され、昭和初期まで栽培されていたが、時代の流れとともに栽培が行われなくなっていた。
- 近年、農家の高齢化、後継者不足が進む一方、農作業の機械化が進み、大場町においても、子どもが農業にふれあい、体験する機会が減っていたが、制度取組を契機に地域ぐるみによる伝統的農法の保全を行うと共に、「大場坊主」の栽培が始まった。



大場坊主の看板と生態系調査

取組内容



- 「大場坊主」を地域の象徴とする郷土米として守り伝えていくため、子ども達との共同作業に交付金を活用し、手作業による田植え、稲刈りを行っている。



- 学校教育との連携により、地元小学校5年生による、「大場坊主」の歴史の研究発表や伝統農法の体験発表を実施している。また、生き物調査を通して、用水・農道の生態把握等を行っている。



伝統農法の伝承

取組の効果

- 子ども達を含め、田植えに49名、稲刈りに52名が参加した。（令和元年度実績）
- 子ども達によるお米づくりの研究発表を実施することにより、伝統農法に対する理解が深まった。
- 地域内小学校と連携し、課外授業として地域住民や農業者と一緒に生き物調査を行うことにより用水へのゴミ捨て防止や、地域活性化に繋がっている。



研究発表の様子



のうちみずかんきょうほぜんそしき かなざわし つばたまち うちなだまち
グリーン・アース農地・水・環境保全組織（石川県金沢市、かほく市、津幡町、内灘町）

- 河北潟に形成されている防風林帯は、19kmにも及び、風からの農作物保護だけでなく、多様な生物の生息場所としての役割を果たしている。
- しかし近年、防風林帯において、松の立ち枯れや、外来植物であるセイタカアワダチソウ、チクゴスズメノビエの密生が見られており、生態系が乱れてきている。
- そこで、学識経験者、消費者団体、環境団体等で構成するアドバイザーグループにより作成された保全計画に沿って、外来植物調査、野鳥調査、防風林調査等が毎年行われており、生態系保全活動が実施されている。

【地区概要】

- ・取組面積993ha（田212ha、畑781ha）
- ・資源量 開水路42.8km、パイプライン58.4km、農道59.4km
- ・主な構成員 河北潟干拓土地改良区、河北潟生産組合連合会、河北潟生産出荷組合、環八会、湖西親和会、北陸彦三会、河北潟自然再生協議会、NPO河北潟湖沼研究所、日本野鳥の会石川、JA金沢市、JA金沢中央、JA石川かほく、石川フォレストサポーター会

〔交付金 約34.2百万円(R2) 農地維持支払、資源向上支払(共同)〕

活動開始前の状況や課題

- 河北潟の防風林帯は、野鳥など、野生生物の多様な生息場所となっている。しかし近年、盛夏の高温等が原因で、防風林帯のクロマツの枯死が見られた。
- また、干拓地内の農業用排水路や農地において、通水阻害や農作物の生育に影響を及ぼす外来植物(セイタカアワダチソウ、チクゴスズメノヒエ等)が発生している。



防風林帯

取組内容

- 生物多様性保全計画を策定し、生態系調査を行っている。
- 防風林帯の生物生息空間を保全するため、地域住民の参加により、クロマツの代替植生樹木の植樹を実施。
- 外来植物の駆除活動を行っている。
- 干拓地で保全が必要な生物の検討のためパンフの作成、配布、勉強会等を行っている。



植樹活動

取組の効果

- 防風林帯整備や外来種対策活動に対して、地域住民や石川県立大学、行政機関職員等含め、300人程度が参加。他団体の植樹活動等も行われていることから、地区の環境保全に対する理解が高まってきている。
- 植樹 H19～ 計 21回
植樹本数 計 2,300本
延べ参加人数 計 1,300名
- チクゴスズメノヒエ除去 H19～ 計 9回
延べ参加人数 計320名



地域住民を含めた生態系保全活動

すえよし くらぶ しかまち

末吉トミヨ倶楽部（石川県志賀町）

- 本地域は、志賀町の中心に位置している平地農業地域である。中心的経営体である（株）トミヨの里を中心に水稻を作付けしている。
- 平成19年度に活動組織を立ち上げ、旧農地・水保全管理支払交付金時代から活動を続けている。名前の由来はこの地区が石川県では2か所しか生息していないトミヨの生息地であることから名付けられた。
- 農業者と非農業者とが協力して活動することで、地域の中で農村環境の維持への意識が高まるとともに、トミヨ生息地の維持・普及につながっている。

【地区概要】※R3年度時点

- ・取組面積29.3ha
（田27.6ha、畑1.7ha）
 - ・資源量 水路7km、農道3km、
ため池1箇所
 - ・主な構成員 農業者、非農業者、
自治会、子供会、
そくさい会
 - ・交付金 約1.35百万円(R2)
- （ 農地維持支払
資源向上支払(共同) ）

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、ほ場整備完了後、担い手への集積が進み、離農者が増加した。担い手だけでは施設等の維持管理などの負担が大きく困難となっていた。
- また、地域の財産であるトミヨの生息地を維持管理していくためにも人手を必要としていた。



取組内容

- 定期的なきめ細かな除草等の農地周りの共同活動を実施している。
- 年1回、地域の各種団体と連携してトミヨ生息地の除草や泥上げ、生き物調査を実施している。



取組の効果

- 共同活動を通して、担い手だけではなく地域で環境を保全していく意識が高まった。
- 子供会が生き物調査に参加することにより、これからの環境保全を担う次世代に対して、トミヨの保護をはじめとする農村環境の保全活動の普及・啓発につながっている。





おやまのうぎょうかんきょうほぜんくみあい

わじまし

尾山農業環境保全組合（石川県輪島市）

- 尾山農業環境保全組合は、平成26年より本交付金による取組を実施している。
- 生物多様性の保全のため、従前の農地・水環境保全事業から継続して活動している。
- 本活動を通じて、地域で環境保全に取り組む意識が向上、農薬使用量も減少し、安心・安全な米づくりを実践している。

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積48.97ha
(田48.97ha)
- ・資源量 水路3.4km
農道2.0km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、
自治会
- ・交付金 約2百万円(R2)

(農地維持支払
資源向上支払(共同))

活動開始前の状況や課題

- 過疎高齢化が進み、農業人口の減少に伴う遊休農地の増加により、生物の減少を危惧。

(2020年農林業センサス)	
農業に60日以上従事した世帯員、役員・構成員(経営主を含む)	730人 (6.0%)
男	485人
女	245人
基幹的農業従事者数	678人
男	412人
女	266人
うち65歳未満	84人
男	57人
女	27人

取組内容

- 地域の小学校と連携し、生き物調査や水質調査を実施。



取組の効果

- 生き物調査の活動に小学生10人(R3)が参加し、生物多様性の保全に係る理解が増進。



みどり こういききょうてい はくさんし 美土里ネットはやしなか広域協定（石川県白山市）

- 本地域は、石川県白山市の旧松任市の南部に位置し、手取川扇状地の豊かな土壌を活かした稲作中心の農村地域である。
- 農業者の高齢化や離農が進む中、農業用施設や農村環境の保全を図るため、平成26年度に7集落で構成する「美土里ネットはやしなか広域協定」を設立。
- 集落が一体となって活動に取り組むことにより、施設が適正に保全管理されるとともに地域コミュニティの強化につながった。

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積247.19ha（田242.81ha、畑4.38ha）
- ・資源量 水路78.7km 農道28.3km
- ・主な構成員 自治会、子供会、農業者団体等
- ・交付金 約16.9百万円(R2)

（ 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) ）

活動開始前の状況や課題

- 本地域では大規模農家への農地集積率が高く、農業者の離農が進んでいる。
- 非農家世帯の増加に伴い、地域住民の農業や農村環境に対する意識の希薄化が不安視されていた。



勉強会・情報共有

取組内容



- 毎月1回、運営委員会委員や各集落の事務担当者等23人が集まり、勉強会や情報共有を行っている。
- 農村文化の伝承のため、虫送り太鼓やかかし作りなどの行事に取り組んでいる。
- 行事には大人も子供も参加し、世代を超えた交流を図っている。



虫送り太鼓の練習

取組の効果

- 取組状況や目標などが各集落に共有され、農業や農村環境の重要性が周知された。
- 失われかけていた農村文化が復活・継承されるだけでなく、地域コミュニティの強化や地域おこしにもつながった。令和3年4月には、地元のこども園や小学校の入園式・入学式を12体のかかしが彩った。



かかしの製作

【地区概要】

- ・認定農用地面積32ha (田31ha、畑1ha)
- ・資源量 水路14.3km 農道3.4km
- ・主な構成員 生産組合、町内会、婦人会、子ども会、土地改良区等
- ・交付金 約1.51百万円(R2)

農地維持支払
資源向上支払(共同)

かんきょうほぜん すえまつ ののいちし
環境保全ネット末松 (石川県野々市市)

- 本地域は市の南西部に位置しており、白山系を水源とする手取川から取水される手取川七カ用水が貫流しており、水利・土壌条件に恵まれているため、水田農業が盛んに行われてきた。
- 農業者の高齢化や後継者不足により農村環境の適切な維持管理が困難なこともあり、平成19年より本事業を活用し、多様な地域資源管理や担い手の確保による保全活動を目標に活動している。
- 活動を通じて、非農業者の参画が促進され、地域住民が一体となって農村環境を維持管理する体制が構築された。

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化、後継者不足により農業施設の適切な維持管理が困難化。
- 高齢化や機械の大型化に伴う施設の安全化対策の遅れや、施設の維持管理と生活環境保全・改善向上に対して、地域住民の参加率の向上を進める必要がある。



総会の様子

取組内容

- 4 農の心いっしょに みんなに
- 5 ジェンダー平等を 実現しよう
- 15 緑の豊かさも 増やそう

- 集落内での景観形成や地域住民との交流を深めるため、地域の住民や子ども達と協力し、末松地内での用水農道沿いの植栽・草刈の活動を実施。
- 農業用水など地域資源の適切な保全を町内会が一体となり実施することにより、環境保全の向上に関心を持ってもらうと共に、子ども会向けには環境保全教室も行っている。



美化清掃

取組の効果

- 幹線用水沿い、用水路沿い通学路の美化清掃、草刈管理及び球根・花の植栽が町内会の恒例行事となった。参加者は100名を超える。
- 環境保全教室では、土地改良区を訪問し、用水に関して学びの機会を提供。子ども達が学んだことを壁新聞にまとめ、学校で発表。市長表彰を受けた。
- 活動により、地域住民の農村環境の維持管理に対する関心が高まるとともに、地域一体となって管理する体制が構築された。



環境保全教室





4-3 農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献 農村の伝統文化継承と地域の活性化

山間農業地域



キーワード

農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

うるちちくかつどうそしき

あなみずまち

宇留地地区活動組織（石川県穴水町）

- 本地域は、町の西部中央に位置する中山間地域であり、農業に由来する伝統文化を継承している地域でもある。しかしながら、農業者の高齢化や後継者不足により農業用施設の維持管理に苦慮していた。
- 平成23年に能登の里山里海が世界農業遺産に認定されたことを契機に、伝統文化継承に注力。平成26年より本制度を活用し、地域ぐるみの維持管理体制を構築し、伝統文化継承の場となる水田の日常的な管理を実施。
- 地域ぐるみの体制構築により、維持管理が充実するとともに、伝統文化継承の活動を通じて、コミュニティ機能の向上等、地域の活性化の一翼を担っている。

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積 31.62ha
(田31.62ha)
- ・資源量 水路 12.7km
農道 10.2km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、生産組合等
- ・交付金 約2.7百万円(R2)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、江戸時代から続くとされる「だんご祭り」が現在も行われるなど農業に由来する伝統文化を継承している。
- 農業者の高齢化や後継者不足により、水路の草刈りなどの農業用施設の維持管理に苦慮していた。



藩政期から続く伝統行事「だんご祭り」は、一年の無病息災や豊作を願い、うるち米と小豆を練った昔ながらの団子が住民に振舞われる。

取組内容



- 平成26年に活動組織を設立し、非農業者も含め地域ぐるみで水路等の草刈を実施。
- 本地域では、江戸時代から、松明を持って夜の田畑を練り歩き、防虫と豊作を祈願する伝統行事「虫送り祭り」が行われており、活動組織は伝統行事の場となる畦道等の日常の管理を行うとともに、虫送りの運営にもボランティアで参加している。



藩政期から続く「虫送り祭り」

取組の効果

- 地域ぐるみで活動することにより、水路等の草刈の体制が強化され、一人当たりの作業負担が軽減するとともに、きめ細やかな管理が可能となった。また、地域全体で維持管理しようという意識が向上した。
(活動参加者 以前:約30人⇒現在:約50人)
- 伝統文化の継承を通じて、コミュニティ機能が向上するとともに、他地域から関心も集め、地域の活性化の一翼を担っている。
(平成25年より町内小学生と保護者の20名程が虫送り祭りに体験参加)



水路等の草刈り



4-4 農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

中間農業地域



キーワード
農村の地域「コミュニティ」の維持・強化へ

(能登町広域協定運営委員会)

やまぐちみどりのさとほぞんかい とちょう

山口みどりの里保存会（石川県能登町）

- 山口みどりの里保存会は、地区内の農道・水路等の一体的な保全管理の維持充実を図るべく、平成19年度から本交付金による取組を実施している。
- 本組織は、集落全世帯の協力を得て組織されている集落営農組織であり、子どもも大人もお年寄りも体の動く人たち全員が一緒になって農作業を行っている。みんなが顔見知りで、みんなが必要とされ、それぞれの役割を果たして全員で助け合っている。
- この活動が、将来も安心してこの集落で生活できる基盤になっている。

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積18.77ha（田18.77ha）
- ・資源量 水路 6.8km 農道 6.1m
- ・主な構成員 山口集落全住民
- ・交付金 約1.01百万円(R2)

農地維持支払
資源向上支払(共同のみ)

活動開始前の状況や課題

- 金沢大学川畠教授から「山口地区は1等米比率が極めて高く、米づくりの適地である」という評価をいただいた。
- 農家の高齢化、後継者不足が進む一方、機械化も進み、山口地区においても子どもが田んぼに触れ合う機会が減少し、農作業の効率化とともに農耕文化も廃れていった。
- 本交付金による活動をきっかけに、地域ぐるみによる伝統的農法の保全を行うとともに「能登木郎米」の栽培が始まった。



地域住民による能登木郎米の協議

取組内容



- 「耕す=文化」である能登の里山の暮らしを守り次世代につなぐため、集落全世帯で管理する「集落共同田」を始め、子どもも含めた地域住民全員の出番と居場所をつくった。
- 放置竹林をチップ化し発酵させた竹堆肥、海洋深層水の葉面散布等の地域資源にこだわった米づくりや、稲架干し、あえのこと等農作業の効率化により廃れていた農耕文化の復活。



集落共同田での稲架干し作業

取組の効果

- 本交付金の活動を通じて、地域コミュニティが強化されるとともに、将来にわたってこの集落に住み続けられる基盤づくりにつながっている。
- 令和元年度には、東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラムに採択され、「持続可能な能登の里山集落づくり」をテーマに山口地区の現状、課題解決策を提言し地域の将来を担う20～40代の集まり「山口若者会」が発足した。
- 令和2年度には「能登の里山集落と関係人口づくり」をテーマに、大学生と山口若者会が連携して、「あえのこと」をオンライン配信する等、地域の活性化に向けて取り組んでいる。



東大生と山口みどりの里保存会



5-1 構造改革の後押し等地域農業への貢献 非農業者の参画の推進による担い手農業者の負担軽減

平地農業地域



キーワード

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

地域資源の
保全管理

おうちがたみどり

邑知潟水土里ネットワーク はくいし ほうだつしみずちょう なかのとまち (石川県羽咋市、羽咋郡宝達志水町、鹿島郡中能登町)

【地区概要】※R3年度時点

- ・認定農用地面積2,135ha (田2,135ha、畑0ha)
- ・資源量 水路656km 農道303km
- ・主な構成員 町内会、土地改良区 JA、NPO法人、福祉法人 漁業組合、環境団体 等
- ・交付金 約109百万円(R2)
 - 農地維持支払
 - 資源向上支払(共同)

- 邑知潟水土里ネットワークは、邑知潟土地改良区の合併を契機に平成19年より本交付金による取組を実施
- 本地域は、59集落・NPO等12団体と参加同意を締結して、農地・農業施設の保全や農村環境保全活動に取り組んでいる。また農福連携として3福祉団体が活動に参画している。
- 活動の浸透と共に加入集落が増え、協定農用地が活動開始時の1,819haから2,135haに増加しており、活動の輪が広がっている。
- 広域活動組織として会計を1本化することにより、集落間での共同作業が可能となった。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、江堀り、草刈等は農家が行っていたが、末端までの管理が充分ではなかった。
- 耕作放棄地になりそうな田が各地で見られた。



取組内容



- 非農家を含めた町内総出での江堀り、草刈を実施。



- 耕作放棄地対策として、社会福祉法人と連携して、休耕田の草刈りや野菜・景観植物等の植栽活動を実施。



取組の効果

- 過去(H28年～令和2年)で延べ53,140名(内、非農家36,451名 68%)で1年平均で10,628名が参加している。
- 農家や担い手の労力削減が出来たことにより、農地集積が進んでいる。(平成28年：77% → 令和2年：81%)
これにより、活動区域内の耕作放棄地は皆無となった。

活動参加人数(のべ人数)

活動区分	参加人数		合計	
	農業者	非農業者		
平成27年度	農地維持支払交付金	3,272人	6,253人	9,525人
	農地維持支払交付金	3,677人	6,446人	10,123人
	資源向上支払交付金(共同活動)	811人	479人	1,290人
	資源向上支払交付金(農村環境保全活動)	111人	1,563人	1,674人
計	4,599人	8,507人	13,106人	
平成28年度	農地維持支払交付金	2,800人	5,510人	8,310人
	資源向上支払交付金(共同活動)	405人	339人	744人
	資源向上支払交付金(農村環境保全活動)	88人	1,222人	1,310人
	計	3,293人	7,071人	10,364人
平成29年度	農地維持支払交付金	2,634人	5,520人	8,154人
	資源向上支払交付金(共同活動)	415人	441人	856人
	資源向上支払交付金(農村環境保全活動)	53人	1,188人	1,241人
	計	3,102人	7,149人	10,251人
令和元年度	農地維持支払交付金	2,394人	5,677人	8,071人
	資源向上支払交付金(共同活動)	398人	440人	838人
	資源向上支払交付金(農村環境保全活動)	80人	1,195人	1,275人
	計	2,872人	7,312人	10,184人
令和2年度	農地維持支払交付金	2,420人	5,860人	8,280人
	資源向上支払交付金(共同活動)	301人	216人	517人
	資源向上支払交付金(農村環境保全活動)	52人	513人	565人
	計	2,811人	6,399人	9,210人